



上棟式記念写真(大多喜現場より)



職人とご家族記念写真(大多喜現場)

春になりました。弊社にとっていくつかニュースがあります。住宅産業研修財団主催による国家プロジェクト(国土交通省)である「大工育成塾」の受け入れ工務店として合格しました。弊社はその財団傘下の「優良工務店の会QBC」会員でありこのプロジェクトに当初から賛同していました。この大工塾は今回で4回め、毎回120人を募集して、全国の受け入れ可能な工務店に預けるというものです。座学として霞が関の本部で講義を受講し、実地教習を各工務店の棟梁のもとで行う3年間のカリキュラムです。塾生は授業料を支払い、給料なしという厳しい条件ですが、3年間にわたって棟梁からマンツーマンの指導を受けられます。徒弟制度が崩壊したいま、名工が日本からいなくなり、伝統の技術が途絶えてしまうのではないかと危惧し、国が職人の育成を支援するものです。

早く、安く、簡単に、と家づくりをすすめた結果、熟練した職人がその技術を生かす仕事がなくなってしまうました。熟練を必要としない部品の組立工に成り下がってしまったのです。工業化された住宅はシックハウス等人間の健康を脅かし、住宅を著しく短命化させてしまいました。いまこそ、伝統技術の継承をする最後のチャンスであると私は考えています。羽山棟梁はじめみんな若手大工の育成をしようと張り切っていましたが、「希望する塾生が通える範囲にいない」ために今回は見合わせとなってしまいました。

別れと出会いが交錯する春はいつも複雑な心境ですになります。どうか、お元気にお過ごしください。

長命住宅にチャレンジ



整然と立ち並ぶ柱



大きな屋根タルキがポイント



渡りあごの仕口は金物を使いません



高野祐之先生のデザインは伝統工法を使い、シンプルな架構を美しく見せます。

素材を大切にする日本の住まい
長い間住み続けるための重要なことは流行を取り入れすぎないことだと思います。デザインは長い間美しいと認められてきたものを基調とするべきだと思います。そうすると、やはり和風のデザインをおすすめしたいのです。

日本では、木、土、紙といった自然素材をそのままインテリアにした部屋をつくってきました。この個性のない空間を特徴としてきたのです。この「無個性」というものは個性の表現の究極ともいわれ、それを受け入れて育ててきた日本人の感性は世界中で大きく評価されているのです。素材を大切にするのは日本人の食にも通じる文化だと思います。現代の若い世代にはつまらない空間に映ってしまうかもしれませんが、その人たちもいつしかこれを美しいと受け入れられる日がくると信じています。



タルキの仕口も複雑なもの。

発行者 ご連絡先
秋葉建設(株) 秋葉 忠夫
〒289-2163 匝瑳市南神崎52-1
電話0479-72-0814 FAX0479-72-0824
Eメール master@woody-akiba.com
HP URL <http://woody-akiba.com/>
ご意見ご感想お待ちしております。